



「第2回キノコキャンプ」

開催日:2024年11月9日~10日

メンバー:平江誠、渡部信雄、石綱覚、寺尾一木
大貫和之、内野繁樹、黒須悠輔(リーダー)

報告者:黒須悠輔

10月に行われた第1回キノコキャンプ(舞茸)に続いて、11月には第2回キノコキャンプが開催された。本キャンプは昨年度から始まり、本宮副事務局長がリーダーを務めていたが、今年は本宮副事務局長がご多忙なため、役不足ではあるが私がリーダーを担当することになった。キノコキャンプ初リーダーということで不安な面もあったが、先輩方に色々とサポートをいただき開催することができた。改めてありがとうございます。今回のターゲットはブナ林の宝石とも呼ばれる「ナメコ」である。



前夜祭では氷点下近くなり凍えそうだったが、平江さんが遠くから薪を集めて焚火をしてくれたおかげで、なんとか宴会をすることができた。体の温まる大貫さんのチゲ鍋やハマナベさんのヒレ酒をいただき心地良くなってきたところで霜が降りてきたので就寝となる。翌朝、紅葉を見ながら、いざ出陣。ハマナベさんはナメコ狩りには行かず、のんびり別行動で宿泊地にて合流することに。



車止めから林道歩き



プチ崩落箇所は難なく通過



道中のヌメリスギタケモドキ(大きなササクレが特徴)
肉厚で身が締まっており食べ応えがあった

林道から沢へ降りると溪相も秋模様で気持ちが良い



目的地の沢入り口に辿り着き、散らばって探すが無もない。しばらくすると内野さんが根元からハサミで切られたムキタケの跡を見つける。どうやら 2、3 日以内に誰か入山したようだ。(ただこれは奥の方まで行ってないことが後程分かり、特に問題無し)内野さんが残念そうに別の場所へ行こうとすると、側にいた寺尾さんが「あー——！！」と、わざとらしく叫んでいる。これはやったなと思い、駆け付けて寺尾さんの視線の先を見ると、そこには少量だが今回第一号となるブナ林の宝石が美しく輝いていた。



今回第一号となるナメコは、味噌汁にピッタリな粒ナメコ。
傘の表面がデコボコしているのはヌメリが寒さで凍っているからである。
「やっぱり僕ちんが最初に見つけちゃったね」とドヤ顔の寺尾仙人。

その後、ナメコ少しと十分な量のムキタケを収穫することができたものの、ナメコは一食分程度にしかない。皆で作戦会議を行い、隣の沢に移動したほうが可能性あるかもしれないという話もあったが、移動したとしても採れる保証は無く、午後 3 時には宿泊地に集合しなくてはならないというタイムリミットを考えると、今いる沢を上流へ歩いて行った方が良さだろうということになった。このままだと夜の宴会は栽培ナメコをスーパーで買ってきて、ということになってしまう。それはリーダーとして、参加してくれたメンバーに大変申し訳なく、絶対に回避したい。できる限りの最善を尽くすため必死に斜面を駆け登って探していると、沢からだいぶ上の斜面に大きな倒木を見つける。遠目でもその倒木にビッシリと生えたものが何であるか分かり興奮と同時に安堵した。「あったぞ～～！」と叫ぶ。



お目当てのナメコ群生に出会えて一安心。これで宴会は予定通りナメコパーティーができそうだ。内野さんと大貫さんも駆け付け、とってもとっても無くならない開きナメコに一同笑いが止まらない。



倒木の先端部にもナメコを見つけた大貫さんと、そこに駆け寄る内野さん。いつもは冷静沈着な宇溪会の紳士は、山菜だけでなくキノコにも目がないようです。笑



忍法 木ノ葉隠れを修得している手練れナメコ



「僕ちんの目は誤魔化せないよ」と寺尾仙人



帰りは休憩という名の談笑を挟みながらのんびり下山

終わってみるとメインターゲットのナメコは宴会用には十分な量。それに加えてムキタケやナラタケなど多くの種類のキノコが採れたので、そこそこ満足な結果となった。「もっとあると思ったんだけどな～」と大貫さん。来年は今回行かなかった沢含めて上流部まで開拓していきましょうね。

宴会場に向かうため私のハリアーと、寺尾さんのジムニーにわかれて乗り込み、林道を下る。この林道は整備されていないので大小さまざまな落石が落ちている。実は私と寺尾さん大貫さんは1週間前に林道状態とキノコの具合を確認するため、今回狩場のだいぶ手前の沢に下見で訪れている。その際、寺尾さんのフォレスターのタイヤが尖った落石に側面を割かれてパンクしているのだ。(次の写真)



1週間前に下見で来た際のフォレスターパンク事件。

「俺はパンクなんてしたことねえんだ」と寺尾さんが言い放った直後に「ブシュー———」、寺尾さんは珍しく落ち込んでいた。初めて使うというスペアタイヤでどうにか帰還。

フォレスターの件があったので落石の間をすり抜けるように慎重に運転していたものの、案外大丈夫そうだなと思ったのと原因不明のアドレナリンが出てきて気づかない内、徐々にハリアーのアクセルを踏み、普通の林道を走るスピードになっていた。

<車内>

大貫さん 「おい、飛ばし過ぎだぞ～パンクするぞ～」

内野さん 「うん、この林道を走るスピードではないね」

ガンッ！（車の背面に石が当たる音）

黒須 「行きでパンクしなかったんだから大丈夫です！（意味不明な根拠）」

大貫さん 「寺尾さんのときは車出してくれたし皆でタイヤ代割り勘しようかとも言ったけど、今回は完全に自己責任だからパンクしても知らねえぞ」

内野さん 「うん、これはパンクしても全く同情しないな」

ガコッ！……パンッ！（車の背面に石が当たる音）

黒須 「スペアタイヤ積んでいるし、この車は他のハリアーと違って過酷な道で鍛え上げられているから大丈夫です！（意味不明な根拠）」

大貫さん、内野さん （……こいつ言う事聞かねえな……）

……

……

バフンッ！！！！（パンクする音）

黒須 「あっ……パンクしました……（/ω＼）」

大貫さん 「……お前分かってんだろな？」

内野さん 「まじか……」



パンクしちゃいました……。

あっという間にペチャンコになったブリジストン。裂け目に手首を抜差しできるほど盛大に裂けていた。
大貫さん内野さんは呆れている。寺尾さんは嬉しそう「俺のときよりひどい！笑」。



こんなときのために積んでいるスタッドレスタイヤを取出す私(アクシデントに動揺しているのか半笑い)。ありがたいことに平江さん寺尾さんも一緒に手伝っていただき、10分かからずタイヤ交換完了。皆様ご迷惑をお掛けしました。大貫さん内野さん言うこと聞かずすみません、**タイヤ代は割り勘で大丈夫です**



左が今回のハリアーパンク事件(右後輪)。右のフォレスターパンク事件(1週間前)(右前輪)と明らかな既視感がある。ナメコは上々だったので来年は新しく迎え入れるランクル 250 で再びこの林道を訪れるだろうが、ここは鋭利な落石だらけで避けるのは難しいため、同じことにならないか心配である…。やはり狭い林道ではジムニー最強なのかもしれない。(それより安全運転が大事ということか…う～む)

<宴会>

キノコ狩りのあとは車で移動し宴会スタート。



本日の収穫量(写真は7割程度)。キノコ鍋やナメコおろし、ナメコそばを作る上では十分過ぎる量で必達目標は達成できたと言える。だが皆のお持ち帰り用を考えると、ちこっと足りない。



宴会からは石綱さんも参戦し、なかなか大変だったキノコの処理など手伝っていただいた。お仕事忙しい中ご参加ありがとうございます。来年はキノコ狩りからの参加、是非よろしくお願いします。



会の重鎮、ハマナベさんは国内の主要源流を全て遡行してきてだけでなく、辿ったルートは今でも詳細に覚えており、若手にも教えてくださる。源流マンとして豊富な経験に加え、他会の友人・知人も多いためハマナベさんの源流エピソードは勉強になるし面白い。「若いやつらで〇〇源流を下から行ってほしいね～」と宇溪会会員への熱い想いを語る。



味が染みた絶品おでん(はまなべさん) つまみにピッタリのナメコおろしは欠かさず



「大貫君は本当にいい身体してるね～」と密着するはまなべさんに対し苦笑いの大貫さん

今回は初めてのキノコキャンプリーターで不安な面もあったが、先輩方から多くのサポートをいただき、どうにか無事終わることができた。一方でお目当てのナメコは収穫できたものの、皆の持帰り分を考えるともう足らんなあと欲が出てしまう。来年は収穫量倍増を狙い作戦を考える必要があるようだ。